

大麦(ファイバース ノウ)の栽培ごよみ

積算温度
700℃
約40日

時期

9月～10月

生育期

播種準備～播種期

11月～12月

分げつ期

1月～2月

積雪時期

3月～4月

融雪直後～草丈伸長期

4月～6月

出穂期～収穫期

主な作業内容

①播種前の排水対策

②土づくり

③種子の準備

④播種作業（播種深度3 cm程度）

・耕作起肥
・基肥施用
好天時に1日で完了する

⑤播種後の排水対策

⑥1回目追肥（播種後1ヶ月頃）

・排水溝の手直し（積雪前）

越冬前茎数目標
600～800本/m²

・根が浅く、長雨・干ばつに弱い
×排水不良

・根張りが良く最後までしっかり穂る
○排水良好

※止葉展開期追肥の目安（分施体系）

葉色 葉色板	施用量(kg /10a)
5未満	硫安7 kg
5以上	硫安5 kg（500本未満） 追肥しない（500本以上）

※硝子粒の発生を抑えるため
茎数と葉色に応じて施用する。
（遅くても出穂10日前までに）

基本防除の徹底

⑦赤かび病防除（1回目）
→ ⑦赤かび病防除（2回目）
（穂摘期）
（1回目から7日後）

カラスノエンドウ
収穫前に必ず抜き取る

⑧収穫（適期刈取）

・されたコンバインにて刈取りを行う。
・大麦、米相互の混入を防ぐため、登録
・子実水分30%以下で刈取り開始。

栽培管理のポイント

良質大麦生産のポイント

◎ 早生跡を基本としたほ場選定
◎ 播種前の徹底した排水対策
◎ 土づくりの実践
◎ 適期・適量の播種

◎ 生育に応じた追肥
◎ 赤かび病適期防除
◎ 適期収穫

①播種前の排水対策

・稲刈り後に早急に額縁排水溝と基幹排水溝（約3m間隔で溝幅30cm、深さ20cm）の設置。

・額縁排水溝と排水口との確実な連結。

・心土破碎による透水性の確保。

①水口はしっかり止める ②額縁排水溝を設置する ⑥排水溝は確実に連結

⑤サブソイラーによる弾丸暗渠を施工 ③基幹排水溝を設置する ④排水口は深く掘り下げる

②土づくり

・pH6.0以上を目標に、苦土石灰を耕起前に散布する。

・堆きゅう肥又は醗酵けいふんを散布する。

資材名	10a当り施肥量	散布時期
苦土石灰	100kg以上	耕起前
堆きゅう肥	2 m ³	
醗酵けいふん	100～150kg	

③種子の準備

・播種時期と種子量

播種方法 \ 播種時期	(kg/10a)		
	9月	10月	
条まき（ドリル播き）	下旬	上旬	中旬
	6.0	6.5	8.5
全面播き	6.5	7.0	9.0

・種子消毒（温湯消毒の場合は必要なし）

薬剤粉衣	ベンレートT水和剤20を乾燥種子重量の0.5%粉衣
種子10kgに50gの薬剤を入れ、水200ml加用して混和する。	

④播種作業

・耕起は、乾いた状態で行い、碎土率を高める。

・播種作業は、準備を早くし適期の9月下旬～10月上旬に終える。

・播種量は、時期に応じて適正量入るように努める。

・播種深度は3 cm程度とする。

⑤播種後の排水対策

・播種前に基幹排水溝を設置できていない場合は播種後に設置し、額縁排水溝と連結する。

・排水側の枕地に排水溝を増設し、排水促進を図る。

倒伏防止のポイント

◎ 適正な播種時期、播種量、及び施肥量の厳守

⑧刈取りの目安

子実水分 30%

30% ツメで押さえてもつぶれない

ツメで押さえると二つに割れる 35%～40%

⑥施肥基準

施肥区分		肥料名	10a当り施肥量	施肥時期	備考	
肥効調節		Jコート大麦48号	45kg	播種時	倒伏しやすい地域は減肥する	
分施体系	基肥	基肥555	側条 30kg	播種時		
			全層 35kg			
	追肥	硫安	1回 20kg	播種後1ヶ月頃		葉色4.5程度に、越冬前の生育量を確保する。
			2回 20kg	融雪直後		茎数1,200本/㎡以上は、施用を控える。
			3回 0～7kg	止葉展開期		止葉展開期追肥の目安を参照

⑦防除基準

[基本防除]

対象病害虫	使用機械名	薬剤名	希釈倍数	10a当り原液量	10a当り散布量	収穫前日数	総使用回数
赤かび病	動力散布機	1回目 ワークアップ粉剤D L	/	/	3 kg	収穫7日前まで	3回以内
		2回目 トップジンM粉剤D L	/	/	4 kg	収穫14日前まで	1回
	動力噴霧機	1回目 ワークアップフロアブル	2,000倍	75ml	150 ℓ	収穫7日前まで	3回以内
		2回目 トップジンMゾル	1,500倍	100ml		収穫14日前まで	1回
	無人航空機	1回目 ワークアップフロアブル	16倍	50ml	0.8 ℓ	収穫7日前まで	3回以内
		2回目 トップジンMゾル	8倍	100ml		収穫21日前まで	1回

[随時防除]

対象病害虫	使用機械名	薬剤名	希釈倍数	10a当り原液量	10a当り散布量	収穫前日数	総使用回数
うどんこ病	動力噴霧機	トリフミン水和剤	1,000～2,000倍	75～150 g	150 ℓ	収穫14日前まで	3回以内

○雑草防除

区分	除草剤名	対象雑草	10a当り散布量	使用時期	総使用回数
播種後（土壌処理）	リベレーターG	畑地1年生雑草 スズメノテッポウ	4～5kg	播種後～麦2葉期 （雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）	1回
	リベレーターフロアブル		60～80ml/水100 ℓ	播種後～麦3葉期 （雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）	1回

※全面播きの場合は除草剤の使用を控える